

各事業体の水道スマートメーターに関する実証実験

	神戸市水道局	東京都水道局	横須賀市上下水道局	横浜市水道局
目的	水道管理コストの削減 適切な施設投資計画 今後の水道管ネットワークの効率的な運用管理	水道使用水量の見える化 見守りサービスの提供	自動検針による人件費の削減 見守りサービスの提供 使用量データを収集需要の把握による事業の効率化	ガスメーターとの無線自動検針の共有化の検証 無線検針と実検針との正確性の比較や自動化によるメリット・デメリットについて検証
実証実験期間	実験試験局免許取得後から平成29年3月	平成26年年9月12日～平成28年1月29日	平成28年3月～平成31年3月	2015年4月～2016年3月
内容	神戸市内9ヶ所に設置した水道スマートメーターから、280MHz帯広域無線ネットワークを介して流量等のデータを収集し、可視化された分析結果を神戸市水道局内においてリアルタイムに確認する。また、計測結果をもとに従来のアナログメーターとの精度や有用性の比較検討を行うと共に、漏水検知への適用の可否について評価する。	お客さまサービス向上の一環として、次の2つのサービスについて、技術開発を行う。 1. 「使用水量の見える化」・・・ご自宅における日々の使用水量を、表示装置やインターネット等により手軽に確認できるサービス 2. 「みまもり」・・・見守られる側のお客さまの水使用に異常があった場合、見守る側のお客さまに対し、Eメールによって異常を通知するサービス	Uバス方式を採用した水道スマートメーターと多段式無線通信技術(Uバスエア)を導入する。 約200世帯にスマートメーターを設置し、機器の技術的な検証やデータ分析などを行う。	横浜市水道局が所有する集合住宅に、ガススマートメーターと水道電子式メーターを導入、2つを同一の発信機(水道は変換器あり)と接続し、無線自動検針システム(本実証での無線通信方式には、Uバスエアを採用)を構築する。 東京ガス(株)研究所内でデータ集計指示、集計データの確認を行う。 検針員の目視による実際の検針データを報告した後、本システムで自動収集した検針データを比較することで、無線通信の信頼性など、実運用面からの有効性を総合的に評価・検証する。
共同研究企業	西日本電信電話(株) SENSUS JAPAN(株) (株)ミライト・テクノロジーズ	(株)NTTPCコミュニケーションズ 沖電気工業(株)	第一環境(株)	東京ガス(株) (株)日立製作所